

妙法蓮華經。法師品。第十

爾の時に世尊、藥王菩薩に因せて八萬の大士に告げたまわ

く、  
藥王、汝是の大衆の中の無量の諸天・龍王・夜叉・乾闥婆  
・阿修羅・迦樓羅・緊那羅・摩睺羅伽・人と非人と及び比丘・  
比丘尼・優婆塞・優婆夷の聲聞を求むる者・辟支佛を求むる  
もの・佛道を求むる者を見るや。是の如き等類、咸く佛前に於  
て妙法華經の一偈一句を聞いて、乃至一念も隨喜せん者には  
我皆記を與え授く。當に阿耨多羅三藐三菩提を得べし。

佛、藥王に告げたまわく、又如來の滅度の後に、若し人あ  
つて妙法華經の乃至一偈一句を聞いて一念も隨喜せん者に  
は、我亦阿耨多羅三藐三菩提の記を與え授く。若し復人あつ  
て妙法華經の乃至一偈一句を受持・讀誦し解説・書寫し、此の  
經卷に於て敬い視ること佛の如くにして、種種に華・香・  
瓔珞・抹香・塗香・燒香・繪蓋・幢旛・衣服・伎樂を供養  
し、乃至合掌恭敬せん。

藥王當に知るべし、是の諸人等は、已に會て十萬億の佛を  
供養し、諸佛の所に於いて、大願を成就して、衆生を愍む  
が故に、此の人間に生ずるなり。

藥王、若し人あつて、何等の衆生か未來世に於て當に作佛  
することを得べきと問わば、示すべし、是の諸人等は未來世  
に於て必ず作佛することを得んと。何を以ての故に、若し  
善男子・善女人、法華經の乃至一句に於ても受持・讀誦し、  
解説・書寫し、種種に經卷に華・香・瓔珞・抹香・塗香・  
燒香・繪蓋・幢旛・衣服・伎樂を供養し、合掌・恭敬せん。

是の人は一切世間の瞻奉すべき所なり。如來の供養を以て之  
を供養すべし。當に知るべし。此の人は是れ大菩薩の

阿耨多羅三藐三菩提を成就して、衆生を哀愍し願つて此の間あいだに生れ、廣く妙法華經を演のべ分別するなり。何いかに況いわんや、盡つくして能く受持し種種しゅじゆに供養せん者をや。

藥王、當まさに知るべし、是この人は自ら清淨しやうじやうの業報を捨てて、我が滅度の後に於て、衆生しゆじやうを愍あわれむが故ゆえに惡世あくせに生れて廣く此この經きやうを演のぶるなり。若し是この善男子・善女人、我が滅度の後のち、能く竊ひそかに一人にんの爲ためにも法華經ほけきやうの乃至ないし一句くを説とかん。當まさに知るべし、是この人は則すなわち如來にやらいの使つかいなり。如來にやらいの所遣しよけんとして如來にやらいの事じを行ぎやうずるなり。何いかに況いわんや大衆だいしゆの中なかに於て廣く人ひとの爲ために説とかんをや。

藥王、若し惡人あくにんあつて不善ふぜんの心こころを以て一劫こつの中なかに於て、現げんに佛前ぶつぜんに於て常つねに佛ほとけを毀罵きめせん、其その罪尙つみなお輕かろし。若し人ひと一の惡言あくごんを以て、在家ざいけ・出家しゆつけの法華經ほけきやうを讀誦どくじゆする者ものを毀訾きしせん、其その罪甚つみはなはだ重おもし。

藥王、其それ法華經ほけきやうを讀誦どくじゆすること有あらん者は、當まさに知るべし、是この人は佛ほとけの莊嚴しやうげんを以て自ら莊嚴しやうげんするなり。則すなわち如來にやらいの肩かたに荷擔かたんせらるることを爲えん。其その所至しよしの方ほうには隨したがつて向むかい禮らいすべし。一心しんに合掌がっしやうして恭敬くぎやう・供養くやう・尊重そんじゆう・讚歎さんたんし、華け・香かう・瓔珞やうらく・抹香まっこう・塗香ずかう・燒香しやうかう・繪蓋ぞうがい・幢幡どうばん・衣服えぶく・肴膳きやうぜんをもつてし、諸もろの伎樂ぎがくを作なし、人中にんちゆうの上供じやうくをもつて之これを供養くやうせよ。天てんの寶たからを持もつて、以て之これを散さんずべし。天上てんじやうの寶聚ほうじゆもつ以て奉獻ぶがけんすべし。所以ゆえは何いかん、是この人ひと歡喜ひとかんぎして法ほうを説とかんに、須臾しゆゆも之これを聞きかば即すなわち阿耨多羅三藐三菩提あぬくたらみやくぼだいを究竟くきやうすることを得えんが故ゆえなり。

爾その時ときに世尊せそん、重かさねて此この義ぎを宣のべんと欲ほつして、偈げを説といて言のたまわく

若し佛道ぶつどうに住じゆうして 自然智じねんちを成就じやうじゆせんと欲ほつせば

常に當に勤めて 法華を受持せん者を供養すべし  
其れ疾く一切種智慧を得んと欲することあらんは  
當に是の經を受持し 并に持者を供養すべし  
若し能く妙法華經を受持することあらん者は  
當に知るべし佛の所使として  
諸の衆生を愍念するなり  
諸の能く 妙法華經を受持することあらん者は  
清淨の土を捨てて 衆を愍むが故に此に生ずるなり  
當に知るべし是の如き人は  
生ぜんと欲する所に自在なれば  
能く此の惡世に於て 廣く無上の法を説くなり  
天の華・香 及び天寶の衣服  
天上の妙寶聚を以て 說法者に供養すべし  
吾が滅後の惡世に 能く是の經を持たん者をば  
當に合掌し禮敬して 世尊に供養するが如くすべし  
上饌衆の甘美 及び種種の衣服をもつて  
是の佛子に供養して 須臾も聞くことを得んと冀うべし  
若し能く後の世に於て 是の經を受持せん者は  
我遣わして人中にあらしめて  
如來の事を行ぜしむるなり  
若し一劫の中に於て 常に不善の心を懷いて  
色を作して佛を罵らんは 無量の重罪を獲ん  
其れ是の法華經を 讀誦し持つことあらん者に  
須臾も惡言を加えんは 其の罪復彼れに過ぎん  
人あつて佛道を求めて 一劫の中に於て  
合掌し我が前にあつて 無數の偈を以て讚めん  
是の讚佛に由るが故に 無量の功德を得ん  
持經者を歎美せんは 其の福復彼れに過ぎん  
八十億劫に於て 最妙の色・聲  
及與香・味・觸を以て 持經者に供養せよ

是の如く供養し已つて 若し須臾も聞くことを得ば  
 則ち自ら欣慶すべし 我今大利を獲つと

藥王今汝に告ぐ 我が所説の諸經  
 而も此の經の中に於て 法華最も第一なり

爾の時に佛、復藥王菩薩摩訶薩に告げたまわく、  
 我が所説の經典、無量千萬億にして、已に説き今説き當に  
 説かん。而も其の中に於て此の法華經最も爲れ難信難解な  
 り。

藥王此の經は是れ諸佛の祕要の藏なり。分布して妄りに人  
 に授與すべからず。諸佛世尊の守護したもう所なり。昔より  
 已來未だ曾て顯説せず。而も此の經は如來の現在すら猶お  
 怨嫉多し、況んや滅度の後をや。

藥王、當に知るべし、如來の滅後に其れ能く書持し讀誦し  
 供養し、他人の爲に説かん者は、如來則ち衣を以て之を覆い  
 たもうべし。又他方の現在の諸佛に護念せらるることを爲  
 ん。是の人は大信力及び志願力・諸善根力あらん。當に知る  
 べし、是の人は如來と共に宿するなり。則ち如來の手をもつ  
 て其の頭を摩でたもうを爲ん。

藥王、在在處處に若しは説き若しは讀み若しは誦し若しは  
 書き若しは經卷所住の處には、皆七寶の塔を起て、極めて  
 高廣嚴飾ならしむべし。復舍利を安ずることを須いず。所以  
 は何ん、此の中には已に如來の全身います。此の塔をば一切  
 の華・香・瓔珞・繪蓋・幢幡・伎樂・歌頌を以て、供養・  
 恭敬・尊重・讚歎したてまつるべし。若し人あつて此の塔を  
 見たてまつることを得て禮拜し供養せん。當に知るべし、  
 是等は皆阿耨多羅三藐三菩提に近づきぬ。

藥王、多く人あつて在家・出家の菩薩の道を行ぜんに、若  
 し是の法華經を見聞し讀誦し書持し供養すること得ること能

わずんば、當に知るべし、是の人は未だ善く菩薩の道を行ぜざるなり。若し是の經典を聞くこと得ることあらん者は、乃ち能善菩薩の道を行ずるなり。其れ衆生の佛道を求むる者あつて、是の法華經を若しは見、若しは聞き、聞き已つて信解し受持せば、當に知るべし、是の人は阿耨多羅三藐三菩提に近づぐことを得たり。

藥王、譬えば人あつて渴乏して水を須いんとして、彼の高原に於て穿鑿して之を求むるに、猶お乾ける土を見ては水尙お遠しと知る。功を施すこと已まずして、轉た濕える土を見、遂に漸く泥に至りぬれば、其の心決定して水必ず近しと知らんが如く、菩薩も亦復是の如し。若し是の法華經を未だ聞かず、未だ解せず、未だ修習すること能わずんば、當に知るべし、是の人は阿耨多羅三藐三菩提を去ること尙お遠し。若し聞解し思惟し修習することを得ば、必ず阿耨多羅三藐三菩提に近づぐことを得たりと知れ。所以は何ん、一切の菩薩の阿耨多羅三藐三菩提は皆此の經に屬せり。此の經は方便の門を開いて眞實の相を示す。是の法華經の藏は深固幽遠にして人の能く到るなし。今佛、菩薩を教化し成就して爲に開示す。

藥王、若し菩薩あつて是の法華經を聞いて驚疑し怖畏せん。當に知るべし、是れを新發意の菩薩と爲づく。若し聲聞の人、是の經を聞いて驚疑し怖畏せん。當に知るべし。是れを増上慢の者となづく。

藥王、若し善男子・善女人あつて、如來の滅後に四衆の爲に是の法華經を説かんと欲せば、云何してか説くべき。是の善男子・善女人は、如來の室に入り如來の衣を著、如來の座に坐して、爾して乃し四衆の爲に廣く斯の經を説くべし。



如來の室とは一切衆生の中の大慈悲心是れなり。如來の衣とは柔和忍辱の心是れなり。如來の座とは一切法空是れなり。是の中に安住して、然して後に不懈怠の心を以て、諸の菩薩及び四衆の爲に、廣く是の法華經を説くべし。

藥王、我餘國に於て、化人を遣わして其れが爲に聽法の衆を集め、亦化の比丘・比丘尼・優婆塞・優婆夷を遣わして其の説法を聽かしめん。是の諸の化人、法を聞いて信受し隨順して逆わじ。若し説法者、空閑の處に在らば、我時に廣く天・龍・鬼神・乾闥婆・阿修羅等を遣わして、其の説法を聽かしめん。我異國に在りと雖も、時時に説法者をして我が身を見ることを得せしめん。若し此の經に於て句逗を忘失せば、我還つて爲に説いて具足することを得せしめん。

爾の時に世尊、重ねて此の義を宣べんと欲して、偈を説いて言わく、

諸の懈怠を捨てんと欲せば 當に此の經を聽くべし

是の經は聞くことを得難し 信受する者亦難し

人の渴して水を須いんとして 高原を穿鑿するに

猶お乾燥ける土を見ては 水を去ること尙お遠しと知る

漸く濕える土泥を見ては

決定して水に近づきぬと知らんが如し

藥王汝當に知るべし 是の如き諸人等

法華經を聞かずんば 佛智を去ること甚だ遠し

若し是の深經の 聲聞の法を決了して

是れ諸經の王なるを聞き 聞き已つて諦かに思惟せん

當に知るべし此の人等は 佛の智慧に近づきぬ

若し人此の經を説かば 如來の室に入り

如來の衣を著 而も如來の座に坐して

衆に處して畏るる所なく 廣く爲に分別し説くべし

大慈悲を室とし 柔和忍辱を衣とし

諸法の空を座とす 此れに處して爲に法を説け  
若し此の經を説かん時 人あつて惡口し罵り  
刀杖・瓦石を加うとも 佛を念ずるが故に忍ぶべし  
我千萬億の土に 淨堅固の身を現じて  
無量億劫に於て 衆生の爲に法を説く  
若し我滅度の後に 能く此の經を説かん者には  
我化の四衆 比丘・比丘尼  
及び清信士女を遣わして 法師を供養せしめ  
諸の衆生を引導して 之を集めて法を聽かしめん  
若し人惡刀杖 及び瓦石を加えんと欲せば  
則ち變化の人を遣わして 之が爲に衛護と作さん  
若し説法の人 獨空閑の處に在つて  
寂寞として人の聲なからんに 此の經典を讀誦せば  
我爾の時に爲に 清淨光明の身を現ぜん  
若し章句を忘失せば 爲に説いて通利せしめん  
若し人は是の徳を具して 或は四衆の爲に説き  
空處にして經を讀誦せば 皆我が身を見ることを得ん  
若し人空閑にあらば 我天・龍王  
夜叉・鬼神等を遣わして 爲に聽法の衆となさん  
是の人法を樂説し 分別して聖礙なからん  
諸佛護念したもうが故に 能く大衆をして喜ばしめん  
若し法師に親近せば 速かに菩薩の道を得  
是の師に隨順して學せば  
恒沙の佛を見たてまつることを得ん